

ふくよみチャレンジ

皆さんは、今、どんな本を読んでいますか。今まで読んだ中で、一番心に残っている本は何ですか。

福島市では、「ふくしま読書の日（ふくよみの日：毎月24日）」を決めています。これは、学校だけでなく家庭でも本に親しめるような取り組みをしようというものです。「家読」（家での10分読書）はその一つです。

野田中学校では、野田小学校と協力して、「ふくよみチャレンジ週間」を行うことになりました。小学1年生から中学3年生まで、学年に応じて、1日の読書の目標時間を決めて1週間取り組むこととなります。

期間は、10月8日（土）から10月14日（金）までです。1日の目標時間は、小学1・2年生が15分、小学3・4年生が30分、小学5・6年生が45分、そして中学1～3年生が60分です。

なぜ小学校と中学校とが協力して実施するのか、この取り組みの最大の特徴は、野田小学校と野田中学校の合計目標時間が決められていることです。それは、5000時間です。小学1年生から中学3年生の児童生徒みんなで、7日間で5000時間を目標に読書をしようというチャレンジです。

1日にどのくらい読書をしたのか、その時間を記録用紙に記入しておき、次の日の朝にタブレット端末で記録します。すると、すぐに小・中合計の累積（るいせき）読書時間が出るようになっています。

野田中学校では、朝の読書を行っています。凡事徹底4か条の3番目には「1冊読書 月に1冊の本を読もう」を掲（かか）げています。その本を家に持ち帰って読んでもいいでしょう。あるいは、家では学校とは違う本を読むのもいいでしょう。普段は、家でゲームをしたり、SNSなどに使ったりしている時間を減らして読書の時間を増やしてみてもいいでしょうか。

小学校に兄弟、姉妹がいる皆さんは、家庭で一緒に読書をするようになるかもしれません。家読の理想的な姿です。ここにお家の方も参加するようになれば、言うことはありません。

長い人生の中で、小学生から高校生の年代の間に、どのくらい読書をするかは、その後に影響してきます。特に、中学生と高校生のうちに本を読むことの重要性を説（と）く専門家はたくさんいます。

ぜひ、朝の読書にプラスして、今回の「ふくよみチャレンジ」をきっかけにして、あなたの読書人生の扉（とびら）を開けてみませんか。